

梅村君 医学部に合格

文武両道
難関を突破

片桐君は筑波、小川君は早大

飯田高校ラグビー班3年の梅村謙太郎君(18)が、信州大学医学部に合格した。昨年12月末に主将としてチームを花園へ導いただけでなく、県内屈指の進学校であり勉強面も全力を傾注。湯沢一道監督は「文武両道の見本のようなもので、申し分ない」と喜んだ。

梅村君は、フオーワード3列目のフランカーとして活躍した。相次ぐけがに苦しむ中、親身になって治療に対応した医師の姿に「医者になりたい」と強く思うようになった。高校1年のころだった。

2年の後半になると医学部に照準をしぼり込み、1日10時間以上勉強に費やす日も。放課後の厳しい練習後も、寝る間を惜しんで参考書を開いた。「合格できて本当によろしいです」と笑顔を見せる梅村君。飯田下伊那地域で医師が不足している現状に触れ「いずれ生まれ育った飯田に戻って、地域医療のために役に立ちたい」と目を輝かせた。

高校生活を振り返ると「ラグビーをしていなかったら医学部にはつながらなかった。花園に2度も出場でき進学先も決まり、充実した3年間で話した。またスタンドオフ(SO)の片桐康策君(18)が筑波大に、ウ

イング(WTB)の小川利貴君(同)が私大のセンター利用で早稲田大に合格。いずれも難関大を一発で突破した。昨年、高校日本代表候補に選ばれるなど全国大会でも注目を集めた片桐君は「出来るころまでやってみたい」と言い、大学でもラグビーを続ける姿勢。社会人ラグビーの「トップリーグ」入りを狙う一方、いずれは教員の道も視野に入れる。小川君は、スポーツトレーナーやコーチといった運動関連の職業を希望している。



難関を突破した片桐、梅村、小川君(左から)